

## 第1学年 国語科学習指導案

は組 男子17名 女子18名 計35名  
指 導 者 中 野 晶 仁

### 1 単 元 たのしく よもう (教材「はなのみち」光村1年上)

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、教材「おはなしよんで」等の学習で、挿絵を手掛かりにして読み物を楽しみながら場面の様子を想像する能力や、興味をもって読み物を読もうとする態度を身に付けつつある。また、自分が想像したことを伝えたり、もう少し長い読み物を自分で読んでみたいという願いをもっている。

そこでここでは、各場面の挿絵を比較することでとらえた登場人物の行動や場面の様子などを基に、言葉のまとまりに気を付けて明瞭に音読する能力や、挿絵を基に想像を広げたことを友達と伝え合い、その言葉の選び方の違いを楽しもうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「たのしくよもう」(教材「はなのみち」)を設定した。

この学習は、内容や文章のリズムに注意して音読し、場面の様子について想像を広げながら読む単元「こえをだして、たのしくよもう」(教材「おむすびころりん」)へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

教材「はなのみち」は、くまさんが袋の中身をなくしてしまうものの、実は袋の中身が花の種であり、くまさんが歩いた後にその種が落ちて、春になり花の一本道ができるというという絵物語である。話の最後で袋に入っていたものが分かり、失敗したと思ったことが好結果を生んだという展開の面白さを味わうことができるこの物語は、結果のみで物事の善し悪しを判断しがちなこの期の子どもたちにとって、過程の大切さを考えながら読むのに適した内容である。また、本教材は、四つのそれぞれの場面に簡単な主述のある文と親しみやすい挿絵が添えられており、文と挿絵を対応させたり、挿絵に出ている動物の言動を新たに考えたりすることで、想像を広げながら読むのに適した教材である。

そこで、本単元では、場面の様子等について想像を広げて音読させるために、動物たちの表情や行動を手掛かりに会話や気持ちを考えさせ、本文にその言葉を書き加えながら読み進めさせるようにする。その際、想像したことや感想を伝える楽しさを味わわせるために、自分なりの思いや考えを付け加えた紙芝居を作らせ、交流させる。

具体的には、まず、教師が作成した紙芝居をモデルとして鑑賞させる活動を導入段階で行い、動物たちの言動や感想を付け加えると物語がより楽しくなることに気付かせる。そして、試し作りとして紙芝居の一枚目に「とり」の言葉を自分なりに想像して付け加え、音読を交流する楽しさを味わわせることで、紙芝居を作りたいという意欲を高めさせる。また、終末段階で自作の紙芝居を友達同士で発表し合うことを確認し、教材を読む価値を実感させる。

次に、「はなのみち」の話の内容をとらえさせるために、季節の異なる場面の挿絵を比較させることで、登場人物や道具・色彩等の違いに気付かせ、叙述と対応させて音読させる。その際、挿絵には示されているものの叙述には現れていない動物たちの言動や場面の様子等について話を膨らませた言葉を友達と伝え合わせることで、想像を広げることの楽しさを味わわせる。

終末では、まとめた紙芝居を友達同士で発表し合い、想像を膨らませて選んだ言葉や互いの音読の仕方について意見交換させ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

なお、これらの学習を通して得られる能力や態度は、繰り返しや五七調のリズムなどを楽しみながら語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する能力や、挿絵や叙述、自分がもった感想から想像を広げて読もうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想	
好きな場面	理由
場面1 (6)	わくわくする (2), 中身が楽しみ (1), くまが好き (1), 無回答 (2)
場面2 (9)	種が落ちている (3), りすが好き (3), たぬきの顔がかわいい (1), 無回答 (2)
場面3 (3)	会話文がおもしろい (2), 穴にやっと気付いた (1)
場面4 (17)	花がたくさん (8), 色がきれい (5), たくさん動物がいる (3), みんなうれしそう (1)
② 内容把握	
ア 袋の中身	花の種(16), 花・花びら(10), 宝物(2), 無回答(7)
イ 花の道ができた理由	くまが落としたものが原因(20), 春の到来 (5), みんなで植えた(3), 無回答(7)
ウ 動物の言葉の想像	主題をとらえた回答(13), 主題をとらえていない回答(12), 無回答(10)
③ 音読の実態	
○ 音読 (字が読める)	
・すらすらできる(11) ・ゆっくりできる(24) ・できない(0)	
○ 語のまとまりに気を付けた音読	
・語のまとまりに気を付けて読める (12) ・語のまとまりに気を付けてゆっくり読める(15)	
④ 言語活動について ※複数回答	
・紙芝居 作ってみたい(35) ・読みたい(33) ・聞きたい(23)	

半数ほどの子どもたちが、第4場面を好きな場面として挙げている (①)。これは、子どもたちが、挿絵を基に花が咲いて動物たちが喜んで様子に気づき、場面の明るい雰囲気をとらえているためであると考えられる。しかし、花の一本道ができたのは、くまが種を落としたからだという理由を考えながら読むことのできている子どもは半数に満たなかった (②アイ)。これは、これまで理由を考えながら読み物を読んだ経験が少ないためであると考えられる。また、動物たちがかわず日常会話等を考えることはできるが、季節の変化や動物たちの行動から考えた場面の様子などを自分の言葉で表現できる子どもは少ない (②ウ)。これは、叙述や挿絵を手がかりに、場面の様子を想像しながら読み物を読んだ経験が少ないためであると考えられる。語のまとまりに気を付けてすらすら読める子どもは学級の三分の一程度であるが、音読できない子どもはいなかった (③)。これは、平仮名を読むことはできるものの、語のまとまりとしてとらえておらず、一文字ずつ確認しながら音読しているためであると考えられる。本単元における言語活動の紙芝居作りについての関心は高く、作った紙芝居を基に交流したいという思いをもっていると考えられる (④)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちに叙述と挿絵や挿絵同士を比較することで想像を広げさせ、自分の思いや考えを友達同士で交流することを通して、教材文や自分の考えた動物の言動や感想を言葉のまとまりに気を付けて音読させるために、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切である。

ア 単元・教材への興味・関心を高めさせるために、教師が作成した紙芝居のモデルを示す。その際、自分が想像したことを反映した音読をさせるために、「紙芝居を作り友達に読んで聞かせる」という相手意識・目的意識をもたせる。そして、「はなのみち」の物語の展開の面白さに気付かせるために、各場面の挿絵と叙述を並べて提示して場面の様子について考えさせる。その際、**場面の異なる挿絵を並べて提示し、挿絵の色、登場する動物たちの様子を比較させ、季節の変化や動物たちの言動について想像を広げたことを自分の言葉で本文に加えながら読み進めるようにする。**

イ 語のまとまりに気を付けさせるために、各場面の地の文や会話文を基に読む部分を分けたり分担したりして繰り返し音読させる。その際、既習の口形や声の大きさを想起させ、明瞭に発音できるようにする。また、紙芝居に付け加える文を、語のまとまりに気をつけて音読しやすいものにするために、子どもたちが想像を広げて考えたことを、簡単な主述の整った文章にして板書する。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習の有用感を味わわせるために、自ら作成した紙芝居を友達同士で交流させ、この学習で身に付けたことを今後の自分の読書生活へ生かせるように話し合わせる。

### 3 目標

- (1) 紙芝居を作ることに関心をもって、それぞれの場面における動物たちの言動等の想像を広げながら、物語を読もうとすることができる。
- (2) 野原や登場する動物の様子に着目しながら各場面の挿絵を比較して、場面の様子をとらえることができる。
- (3) 「はなのみち」を読んで想像したことが伝わるように、ひとまとまりの語や文に気を付けて明瞭な発音で音読することができる。

### 4 指導計画（全7時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	<p>どんなお話かな。早く知りたいな。</p> <p>紙芝居を自分で作って、読んでみたいな。</p> <p>どうすればもっと楽しい紙芝居になるのかな。</p> <p>色ぬりは、様子を考えるといいな。</p>	<p><b>1 学習意欲の喚起（本時）</b></p> <p><b>(1) 教材との出会い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材文に対する初発の感想</li> <li>・ 物語の概要把握 (登場人物、場面、あらすじなどの確認)</li> </ul> <p><b>(2) 試行（試し作り）</b></p> <p>「かみしばいをつくって よんでみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙芝居作りの試行（試し作り）</li> <li>・ 音読の試行</li> </ul> <p><b>(3) 課題解決の見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の学習課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材への興味・関心を高めさせるために、「はなのみち」の読み聞かせをし、音読をさせたり、感想を聞いたりして、あらすじや登場人物などを確認する。</li> <li>○ 想像しながら読む楽しさを感じさせるために、教師が作成した紙芝居のモデルを示し、教材文のとおりを読んだものと、想像を膨らませて会話を付け加えて読んだものとを比較させ、どのような違いがあるか話し合わせる。</li> <li>○ 動物たちの様子や場面の雰囲気をとらえさせるために、挿絵と叙述を関連付けて想像させる。</li> <li>○ くまさんの気持ちを想像させるために、声量に注意して音読させたり、行動と関連付けた会話を考えさせたりする。</li> <li>○ 語のまとまりに気をつけて音読させるために、子どもが想像して発言したことを、「～が、～ました。」の文型に整えて板書する。</li> </ul>
しらべる・ふかめる④	<p>絵を見て、動物がどんなことを言っているか付け足すと楽しい紙芝居になるな。</p> <p>自分の紙芝居と友達の紙芝居を比べると、違うところがあって楽しいな。</p>	<p><b>2～5 限定された範囲での試行錯誤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材文の読み取りと紙芝居づくり</li> </ul> <p>「たのしいかみしばいをつくるには、どんなことがたいせつなのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 叙述の視写</li> <li>・ 登場人物の会話の想像</li> <li>・ 動物たちの言動や感想を紙芝居へ追加</li> <li>・ 音読の練習</li> <li>・ 挿絵の着色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 春になって花の一本道ができたことを理解させるために、挿絵同士の比較による季節の変化についての気付きと「あたたかいかぜ」や「ながいながい」などの言葉とを関係付けさせる。</li> <li>○ 場面の様子をとらえさせるために、付け加えた会話を友達と比較させ、なぜそのように考えたのかを交流させることで考えを広げたり深めさせたりさせる。</li> <li>○ 紙芝居を作ってきたことの成就感を味わわせるために、完成した紙芝居を発表させ、友達の紙芝居で楽しく感じる事ができたところを伝え合わせる。</li> <li>○ 場面の様子を比較したり、季節の変化をとらえたりしながら想像して読むことの楽しさを振り返らせるために、なぜ言葉を加えることができたのかを考えさせる。</li> </ul>
ふりかえる・いかす②	<p>自分が最初に作った紙芝居より動物の様子を加えられたし、できあがった紙芝居を読み合ったらすごく楽しかったよ。</p> <p>これから絵本を読むときには、文には書いていないことも考えると楽しそうだな。</p>	<p><b>6 試行（試し作り）の見直し</b></p> <p>「かみしばいは たのしく よめるものになったかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他の紙芝居の比較</li> <li>・ 試行と完成した紙芝居の比較</li> </ul> <p>どうぶつが はなしたことを かんがえたり、れんしゅうして ことばをはっきりと おんどくしたりすると たのしいかみしばいになる。</p> <p><b>7 活用場面の想起</b></p> <p>「まなんだことを どのように いかせるかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想像を膨らませる読み方の活用について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元の学習を価値付け、今後の学習に生かすために、日常生活や他教科等で活用できそうな場面を話し合わせる。</li> </ul>

5 本 時 (1 / 7)

(1) 目 標

教材文に会話や感想を付け加えて音読することを通して、想像を広げて音読することの楽しさに気づき、紙芝居を作って交流しようとする意欲を高めることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時は、取り組むことを明らかにするための学び合いが重要である。そこで、教材文に動物の言動や物語の感想を付け加えた紙芝居をモデルとして提示する。そして、教材文に新たに付け加わった部分の読み方を考えて音読させたり、自分で動物の言動を考えて付け加えさせたりしたことを友達と比較させることでその楽しさに気付かせ、紙芝居を作って交流したいという思いをもたせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 教材文を読み、「はなのみち」の内容を大まかにとらえる。 ・ 読み聞かせ ・ 範読 ・ 役割を設定した音読 ・ 挿絵の並び替え	(分) ↑ 10	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、教材文の読み聞かせをし、アニメーション「ダウトをさがせ」を行う。 ○ 音読する楽しさを味わわせるために、教師の後について音読させたり、役割を設定して隣同士で音読させたりする。 ○ 物語のあらすじをとらえさせるために、順序を入れ替えた挿絵を提示し、話の順序になるように並び替えさせる。
	2 教師の作成した紙芝居を基に、学習課題を設定する。 ・ 教材文と紙芝居の比較		
しらべる・ふかめる	かみしばいを つくって よんでみよう。	25	○ 物語のあらすじをとらえさせるために、順序を入れ替えた挿絵を提示し、話の順序になるように並び替えさせる。 ○ 学習課題を設定するために、動物の言葉を追加した紙芝居を示し、基の教材文と比較させ、「ためきやかえるがしゃべってもいいのかな。」と問い、他の動物の言葉が加わることのよさを考えさせる。 ○ 音読することの楽しさを味わわせるために、同じ叙述で自他の音読を比較させ、「声の大きさは友達と同じかな。」「友達は、どんな気持ちで読んだのだろうか。」と問い、自他の考えの違いに気付かせる。 ○ 物語に話を付け加える楽しさを味わわせるために、「自分が鳥だったらどんな言葉をくまさんにかけてあげるかな。」と問い、想像を広げさせて自分の紙芝居に書き加えさせる。 ○ 語のまとまりに気をつけて音読させるために、子どもが想像した鳥の言動を「～が、～ました。」の文型に整えて板書する。
	3 どのような紙芝居にするか話合う。 とりさんがいいました。「なんだろうね。だれかにきいてみたらどうだい。」 「袋の中身は何だろう。」と、質問するみたい読んでみようかな。		
	「聞きに行こうよ。」って、さそうように読みたいな。 と 小鳥だから、小さなかわいい声で読むといいよ。 み		
	とりさんがしゃべる言葉をかえたら、もっとおもしろそう。付け加えた文を、他の文にかえてみようよ。		
ふりかえる・いかす	小さいから、花の種じゃないかな。何の花か分からないけど。 み 種のことなら、リス君に聞いたらいいかも。木の実とかかに詳しいから。	10	○ 物語に話を付け加える楽しさを味わわせるために、「自分が鳥だったらどんな言葉をくまさんにかけてあげるかな。」と問い、想像を広げさせて自分の紙芝居に書き加えさせる。 ○ 語のまとまりに気をつけて音読させるために、子どもが想像した鳥の言動を「～が、～ました。」の文型に整えて板書する。 ○ 単元の見通しをもたせ、学習課題を設定するために、試しに作成した紙芝居の工夫したところや、読んで聞かせるときに心がけたことなどを交流させる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、誰のどのような考えがおもしろかったか、友達に音読を聞かせて楽しかったこと等の視点で振り返らせる。
	自分で考えた文を付け加えて紙芝居にすると、おもしろいね。早く最後まで作りたいな。 ひ		
	4 単元の学習課題を設定する。 たのしい かみしばいにするには、どんなことがたいせつ なのかな。		
	5 本時の学習を振り返り、自分や友達の良かったところを発表し合う。 ○○さんの考えた「何の花か分からないけど。」は、鳥さんも知りたくっているみたいでおもしろかったよ。		